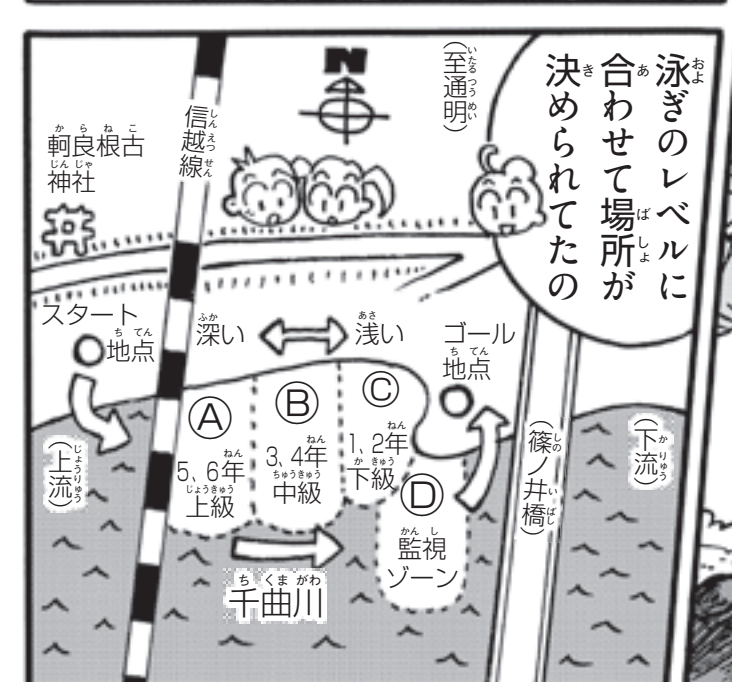
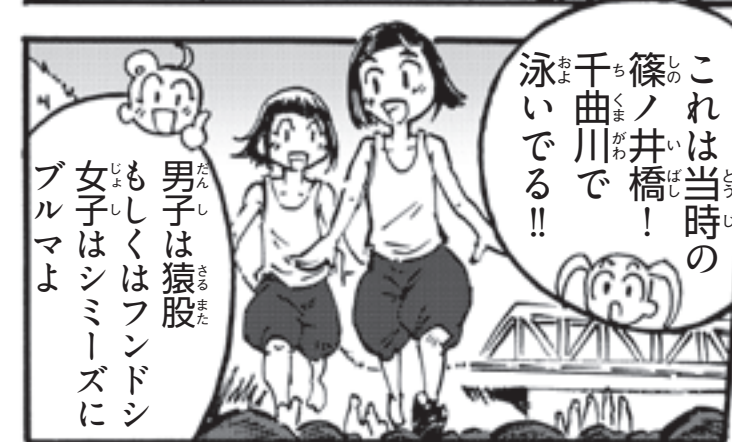
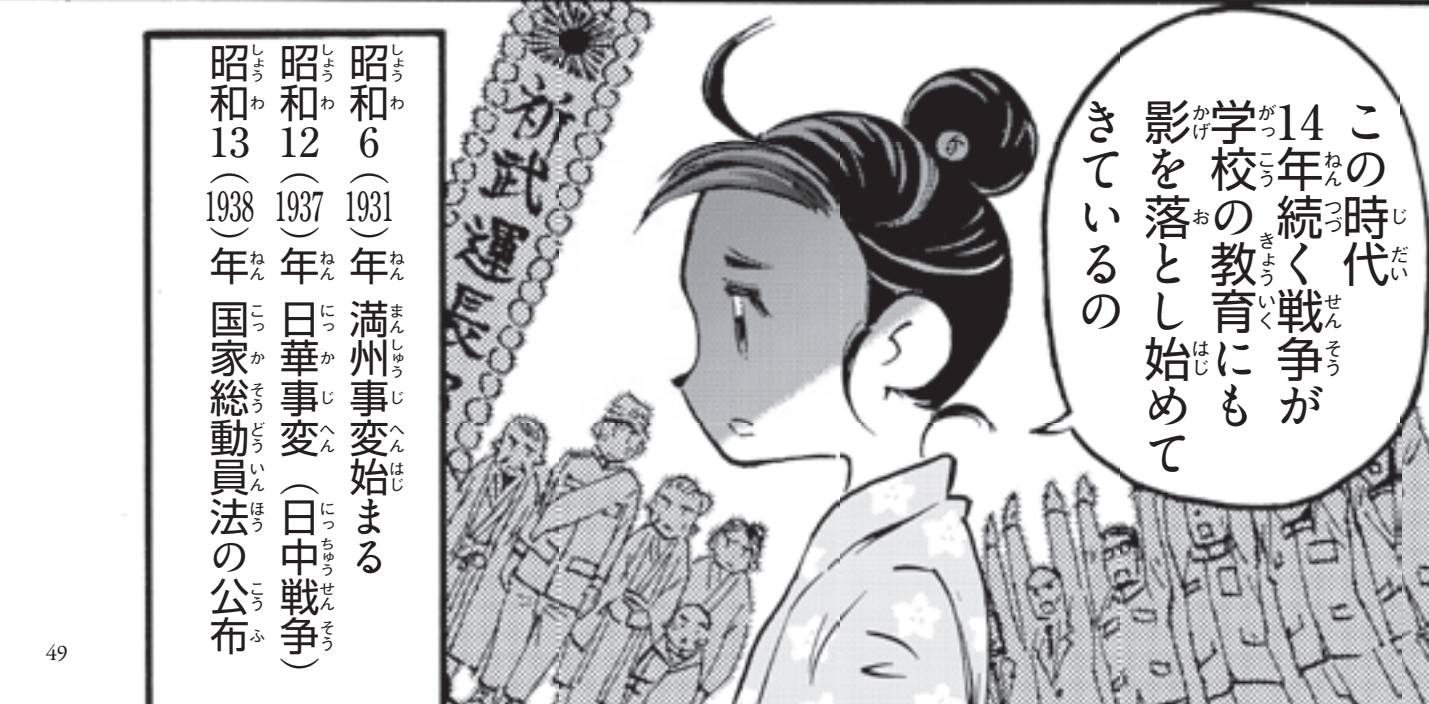
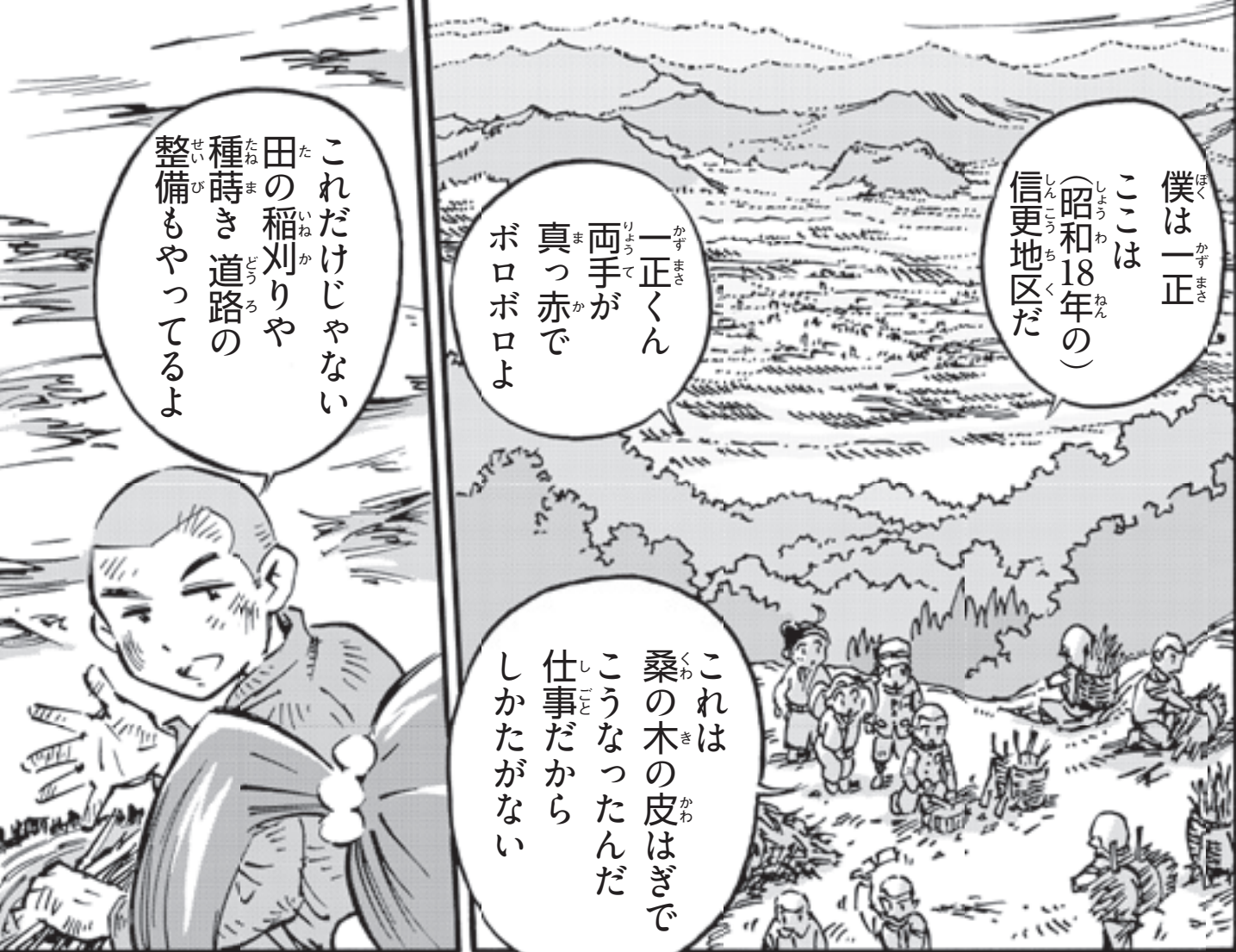


第5章

戦争 ～どん底から通明の元気を～ 昭和11(1936)年～昭和21(1946)年







これだけじゃない
田の稲刈りや
種蒔き道路の
整備もやってるよ

一正くん
両手が
真っ赤で
ボロボロよ

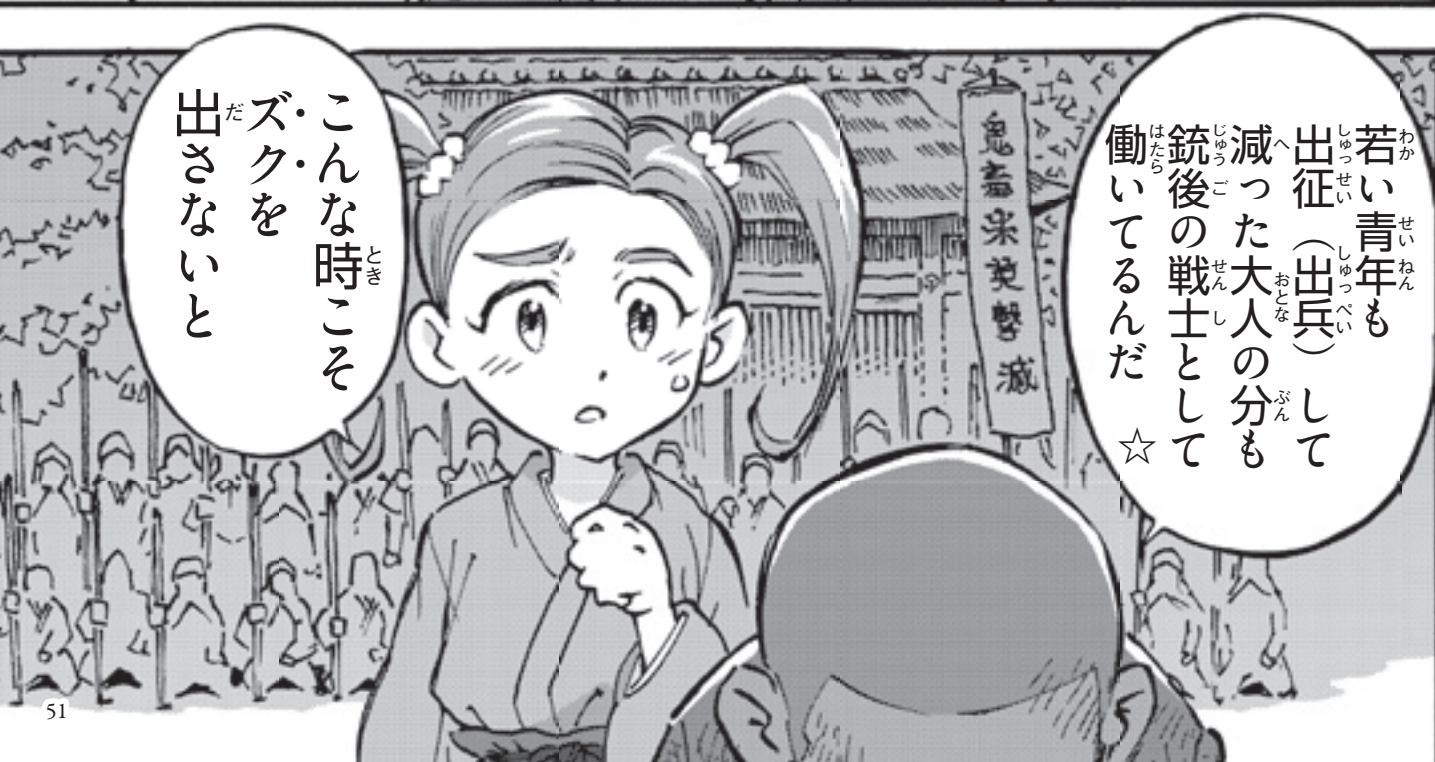
僕は一正
ここは
(昭和18年の)
信更地区だ

これは
桑の木の皮はぎで
こうなっただ
仕事だから
しかたがない



この前も
戦勝祈願で
布制神社に
みんなで行
ったんだ

初等科6年や
高等科なんか
工場勤務だ
授業も
兵式訓練が
増えた



こんな時こそ
ズクを
出さないで

若い青年も
出征(出兵)して
減った大人の分も
銃後の戦士として
働いてるんだ ☆



国防
婦人会
興亜奉仕

太平洋戦争が
起きてしまうの

予科練
言論出版
取締令
供出

子供會解散
配給制
国民服

集会禁止
アジアに進出した
日本は英・米諸国との
友好条約を破棄
そして昭和16(1941)年
ついに

銃後の備え
大詔奉戴日

臨時召集令状

うそでしょ...
おじいちゃんや
おばあちゃんの子どもの
時代にそんな
戦争があったの!?



みんな
何してるの?

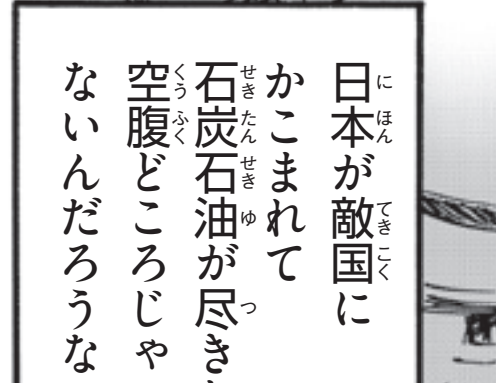
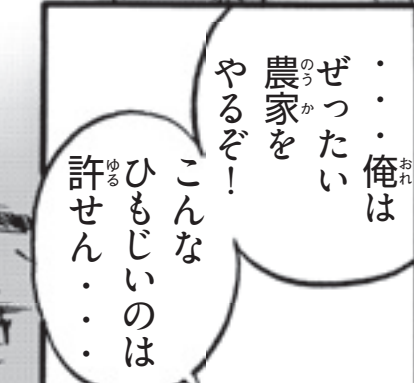
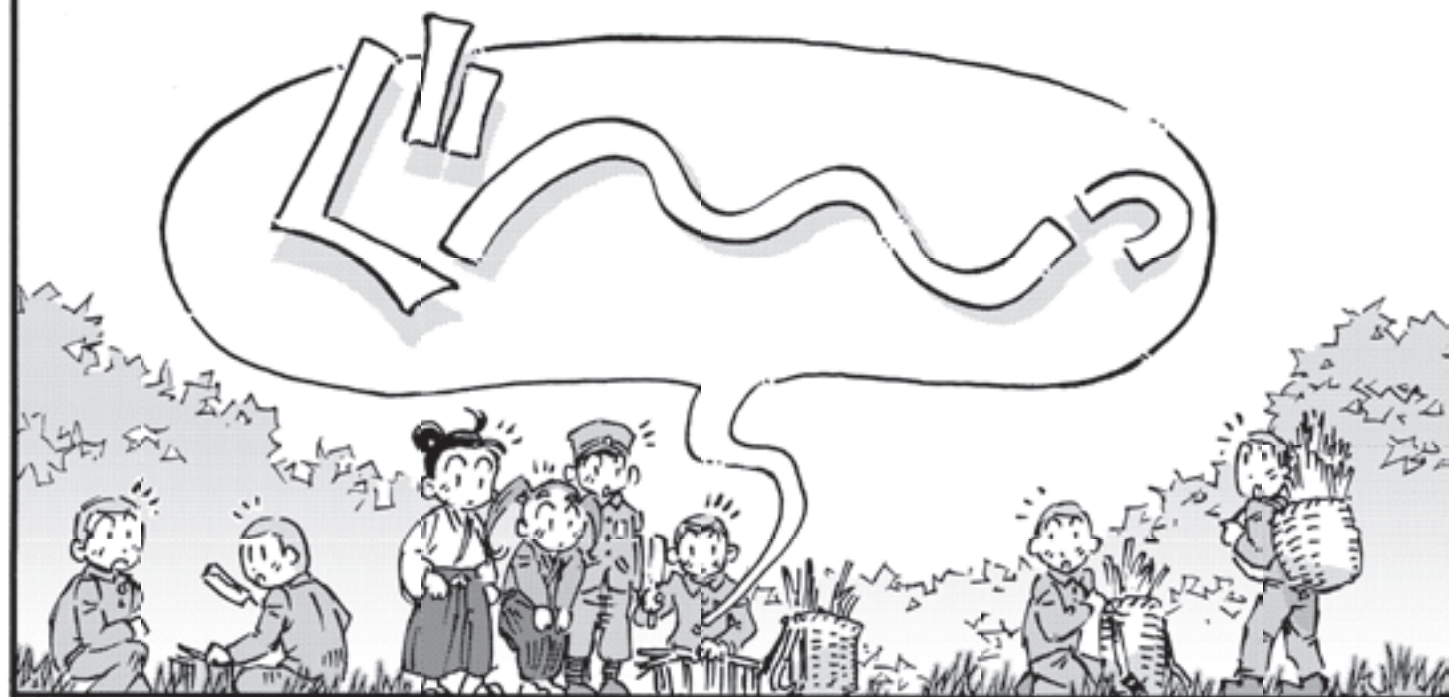
ここは?

昭和19(1944)年
緊急学徒勤労動員方策
要綱が決定され
授業は減り 勤労奉仕で
戦時下を支える要員として
労働を強いられる

学校で使う
燃料の薪拾い
だよ

同じ年には
国民学校令が出て
「通明国民学校」と
名前が変わって
児童の生活も
一変したの

いてて...



池袋第二国民学校の児童は
塩崎国民学校だから
こっちに並んで!!

昭和20(1945)年3月の
東京大空襲以降さらに
学童疎開は強化され
「根こそぎ疎開」と
言われたの

とくに東京はじめ
名古屋、大阪
福岡の大都市から
子どもを守るため
大勢が親元を
離れて地方都市に
向かったの

そんな
ことが...

ここが
篠ノ井...

疎開には
親族知人をたよる
縁故疎開と
身寄りのない児童の
集団疎開があり
お寺や旅館に
寝泊まりしたの

疎開学童
入学式

知らない土地で
いきなり子どもたち
だけで生活なんて
不安になるよ

このクラスは
62名に増えて
ギユウギユウね

おい聞いたか?
2組の先生が
出征する
らしいぞ...

それと
.....

でも...

一正くん...

わははは
腹の虫は
正直だ





昭和20(1945)年
8月13日
長野市・上田市上空



ツグミ……



ううつ

!!



太平洋上鹿島灘の艦上より
グラマンF6F・F4Uが
飛来してロケット弾・
焼夷弾・機関銃で攻撃

陰に
隠れろ!

こんな
低空で飛び
やがって!!

篠ノ井は当時の
新旧国道沿いの市街や
駅を機銃掃射され
一般市民2名が亡くなった



あれは——
少し若い桐の木

戦争になったら
自由な行動も
発言もできない
なんて……

!



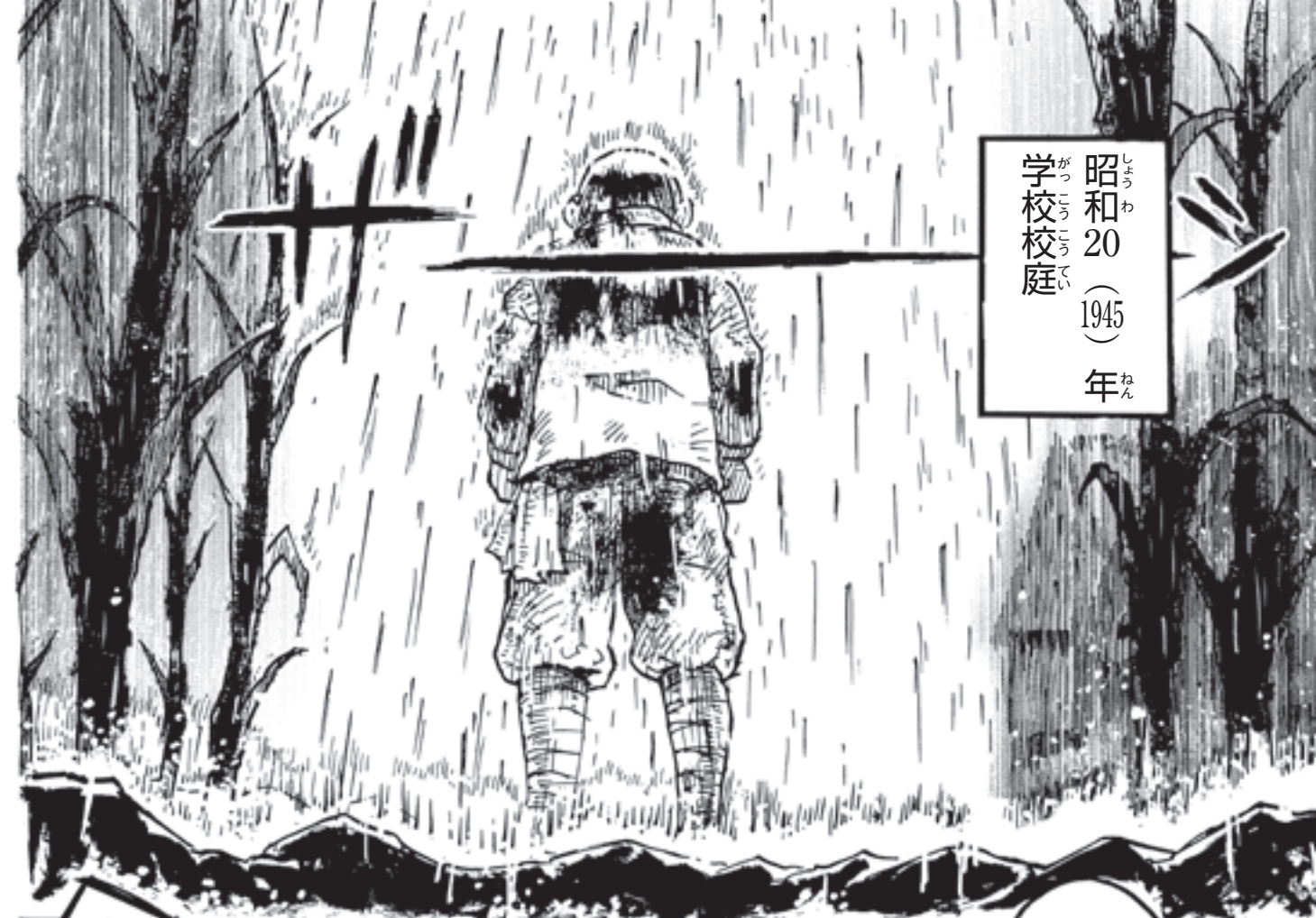
……
やっぱり
そうだ



この桐の木から
前に感じた
悲しい気持ち

ずっとずっと
こんなに前から
通明小学校の
「嬉しい」も「悲しい」も
受け止めて来たんだ

昭和20(1945)年
学校校庭



雨が降ると
いつも校庭は
池のようになった

見ろ！
校庭の水が
引いてるぞ！



すごい！

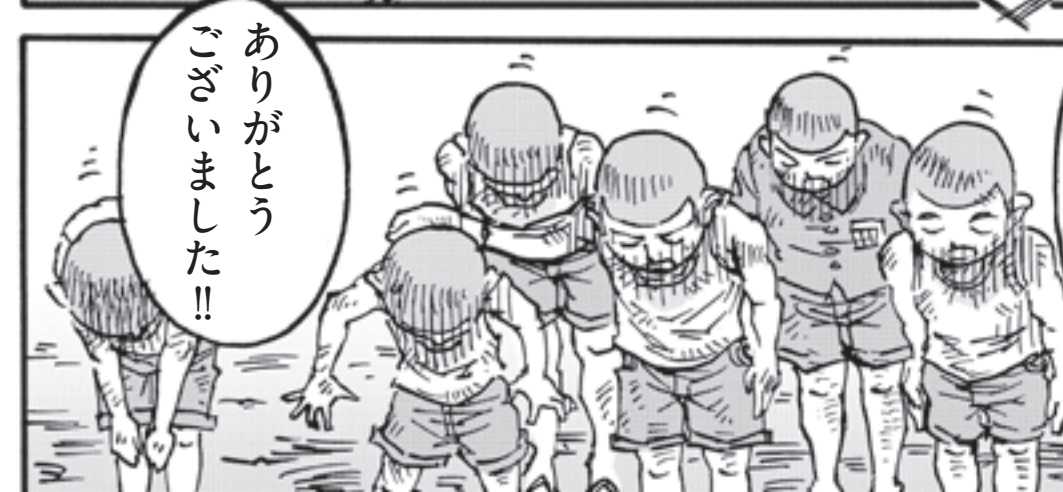
これだけ
土で固めれば
大丈夫だ

これで
たくさん
遊べるだろ



青年会の
お兄さんたち
が……

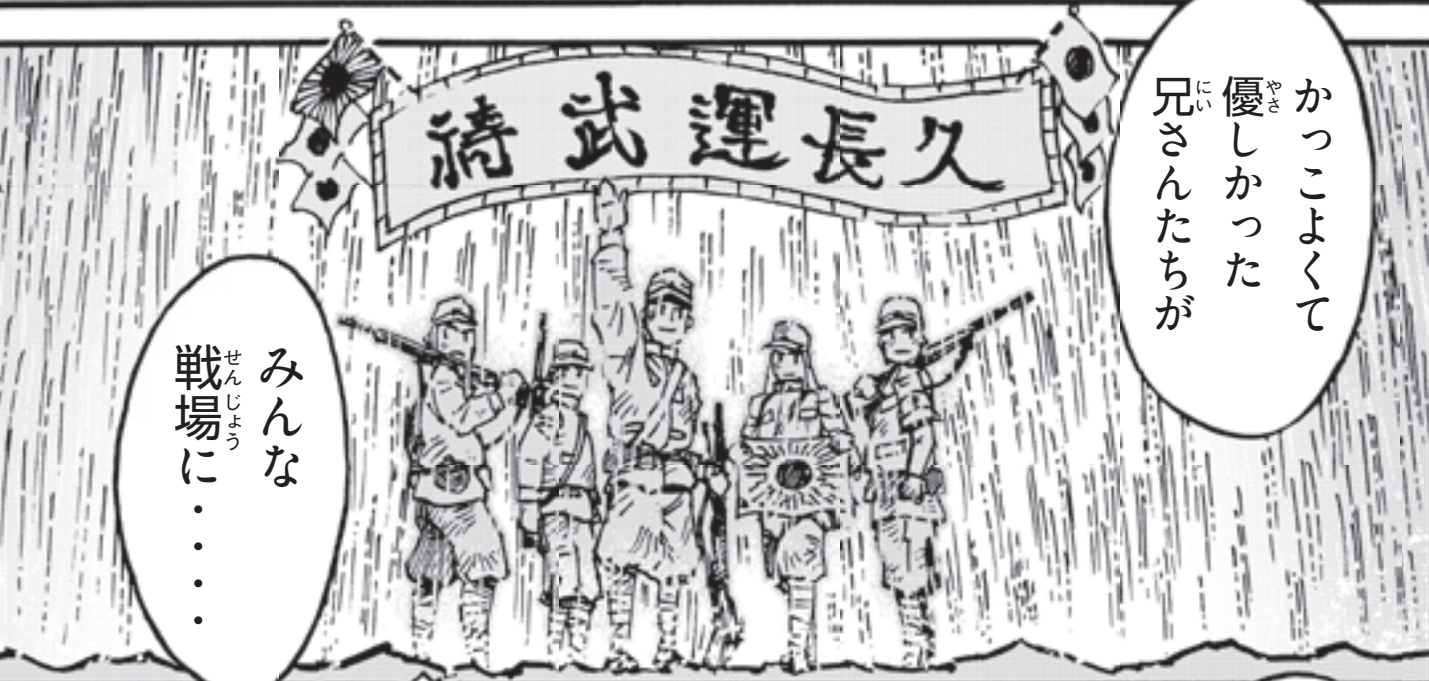
ありがとう
ございました!!



かっこよくて
優しかった
兄さんたちが

靖武運長久

みんな
戦場に……



どうして……
何が良くて
何が悪かったの？

子どもに
わかるもんか
!!



ただ！
これ以上……

大切なものを
奪わないでくれ
……!!



8月15日
終戦

広場・寺院・民家
日本のいたる所で
天皇による敗戦の宣言
がラジオから流された

堪へ難キヲ堪へ

忍ビ難キヲ忍ビ

以テ万世ノ為ニ

太平ヲ開カムト

「けれども
時の運命は
耐え難いことに耐え
我慢ならないこと
にも我慢して――」

人類の未来のために
平和の実現を図りたい」
そんな意味の言葉が
語られたの

俺たちは
生きのびた
けど……

これから
わたしたち
どうなるの？

一正君

どんなに日本が
傷ついてたと
しても

絶対に
日本は
立ち直るよ！

きっと
君たちには
未来が作れる

……
ああ

そうだな……
何事も――

第5章 戦時下の通明小

【長野空襲（ながのくうしゅう）】



昭和11年に御開帳にあわせて建造された長野駅

空襲を受けた長野駅

昭和20年8月13日朝から夕方にかけて、長野市は長野駅や長野飛行場（現犀陵 中学校付近）等に、計5回にわたってアメリカ軍による爆撃を受け、少なくとも46名の尊い命が犠牲となりました。この一連の空襲を長野空襲といいます。人々に大きな脅威を与えることが空襲の目的であったとされています。もし、長野県がB29大型爆撃機の候補都市に入っていたら、被害はさらに大きくなっていたでしょう。



爆撃を受けた旧国鉄長野機関区（長野駅）
（出典：長野が空襲された）

同じ年の
8月6日に広島で、
8月9日に長崎で原爆が
投下されて
終戦を迎えたんだね

交通の要所であった篠ノ井駅 周辺も2回にわたり空襲を受けました。正午前、駅の東側民家にロケット弾が落とされ、2名が犠牲になりました。また、機銃掃射で民家10数戸が被害を受けました。午後3時半頃、再び駅周辺を4～5回にわたり銃撃し、駅や民家の屋根などが損傷しました。



【学童疎開（がくどうそかい）】

	学級数	児童数	クラス平均		転入児童数
1 学年	4 クラス	269 人	67 人	1 学年	66 人
2 学年	4 クラス	290 人	73 人	2 学年	78 人
3 学年	4 クラス	259 人	65 人	3 学年	54 人
4 学年	4 クラス	278 人	70 人	4 学年	57 人
5 学年	4 クラス	272 人	68 人	5 学年	61 人
6 学年	4 クラス	256 人	64 人	6 学年	38 人
合計	24 クラス	1,624 人	68 人	合計	354 人

通明国民学校 学級数・児童数
(昭和20年9月)

疎開による転入児童数
(昭和20年9月)

学童疎開とは、第二次世界大戦末期の昭和19～20年に、米軍による本土爆撃に備え、大都市の国民学校初等科（現在の小学校）3～6年生をより安全な地域に一時移住させたことをいいます。通明小学校の疎開児童のほとんどは、親戚を頼った「縁故疎開」であり、特に昭和20年3月の東京大空襲以降の4月に目立って増加しました。

【桐の木（きりのき）】



現在地に学校が移転した頃、校地の周辺に沢山の桐の木が植樹されました。シンボルツリーとして親しまれている昇降口前の桐の木は、当時の桐の木の子孫と考えられます。また、桐の花の「紫色」は、本校のスクールカラーとして採用されています。